

# 口唇・口蓋裂による 器質性構音障害

おなかの中でけがをしたの？手術できれいに治るの？ちゃんとしゃべれるようになるのかな？

## 口唇・口蓋裂とは・・・

生まれてきた赤ちゃんの上くちびるや上の歯ぐき、上あご(口蓋 = 口の天井の部分。鼻と口を仕切っている)が裂けていることがあります。妊娠初期に、胎児の顔面は左右から組織が盛り上がり真中でくっついて出来上がるのですが、うまくくっつかずに生まれてきた状態で、正確には「裂けた」ではありません。(ただ、本人やきょうだいへの説明には「お母さんのおなかの中にいたとき、けがをした」という言い方がわかりやすく、納得しやすいようです。)

胎児の時に顔面の形成に異常が起こる原因は特定できないことが多く、口唇口蓋裂の赤ちゃんはどのお家にも生まれてくる可能性があります。生まれる前に超音波検査などでわかり、ご両親に知らされることもあるようですが、生まれていきなり事実を知らされる場合もあり、いずれにしても「ビックリした」「顔をみたときはショックでした」と述懐される御家族は少なくありません。治療についての医療機関での説明もありますが、『親の会』に参加して「同じような子がたくさんいるんだな」「こんなに元気にそだつんだな」「口や鼻の形は、手術できれいになるもんなんだな」とようやく安心なさる方もいらっしゃいます。

## ・症状

以下のような問題がいくつか起きる可能性があります。

- 声が鼻にぬける
- 異常な発音を学習してしまうことがある
- ミルクが上手く吸えない
- 食べ物を飲み込む時、鼻の方へ流れる
- 歯のかみ合わせが悪い
- 中耳炎や虫歯になりやすい

## ・対応策

口唇口蓋裂は、容貌の問題だけでなく、前に述べた症状のようないろいろな不都合が生じるので、形成外科や口腔外科で手術をして縫い合わせます。体調や体格に問題がなければ口唇は生後数ヶ月後で、口の中は2歳までに手術をすることが多いのです。その後、鼻の方に漏れないかなど経過をみていき、発音に問題がある場合は、発音の訓練を行います。本格的な発音の訓練は4歳くらいから就学までに行われます。体の成長に伴い、形を整える再手術や歯の矯正をする事もあります。このように、体の成長が終わる10歳代後半まで、断続的に医療機関にかかるのが一般的です。

口唇口蓋裂の形成手術や歯科矯正は、「自立支援医療」(H17年度まで「育成医療」「更生医療」としていたもの)の給付の対象となっています。詳しいことは、各市町村の福祉課・県内の健康福祉センター・県総合福祉相談所にお問合せください。